

学校だより  
はす

ぬま

ちゅう

かがみ

平成27年度 第17号

平成28年1月27日発行

大田区立蓮沼中学校

校長 大原 章 博

# 蓮沼中鏡

## 蓮中祭展示発表 & 学校公開



1月15日(金)と16日(土)の2日間、蓮中祭展示発表を行いました。

昨年度は、体育館1階を使って集中的に展示しましたが、工事の関係で美術室、被服室、木工室、視聴覚室等1階を展示会場としました。また、書初めは例年通りに各教室の廊下に展示しました。来年度は、また体育館の1階等を中心に集中して展示し、鑑賞しやすくしたいと考えています。

展示されているどの作品も、日ごろの学習の成果が表れたものになっていました。学校が落ち着き、集中して授業に取り組む環境ができてきた証拠だと思っています。このような文化的活動でも「蓮中維新」が行われていると思うと大変、うれしいです。

また、16日(土)は学校公開の日でもありました。保護者(1年70名、2年36名、3年68名、1組21名)と地域の方で204名の参観がありました。全校生徒数は379名ですから、それだけ本校に対する関心の高さがうかがえます。さらに、アンケートには54名の方から声を寄せていただきました。昨年までと比較すると、生徒の態度や生活指導面での意見よりも授業内容についてのご意見を多くいただくようになりました。「分かりやすい」「生徒が意欲的に取り組んでいた」「映像を使っていてよかった」という意見もあれば、逆に「板書に誤字があった」「先生の声が小さい」「扉が閉まっていて入りづらかった」などの意見もありました。授業の質を高めるためにも、これらの意見を大切にしていきたいと思います。ご協力、ありがとうございました。



### 新入生保護者説明会でのうれしい一言

1月12日に新入生保護者対象の説明会を行いました。当日は、朝から小雨がぱらつく中、約100人の方に出席をいただきました。その中には、本校卒業生の方もいて、「自分たちの時と比べて、学校がきれいになったし、生徒が落ち着いて授業を受けている」と言ってお帰りになりました。私たちは、こんな言葉をととてもうれしく思います。

# 学校生活アンケート・その2

今回から回答を5択に変更したため、昨年度との比較  
ができません。

今回の結果では肯定的な回答の割合が、生徒・保護者・教員でどう異なるかを比較しました。

No.	内 容	生徒と 保護者の差	生徒と 教員の差
1	生徒は毎日学校に登校するのを楽しみにしている	-8.8	-29.3
2	生徒は学校生活に満足している	1.3	-25.4
4	生徒は意欲的に学校行事に取り組んでいる	-6.4	-20.4
8	生徒は学校のきまりをきちんと守り、公共物を大切に生活している	-1.9	20.0
10	生徒は地域の一員として、地域活動に参加している	-27.4	-32.7
16	先生は分かりやすく工夫した授業を行い、適切な評価・評定を行っている	5.1	-29.4
17	先生は、生徒の悩みなどの相談にのってくれている	1.9	-33.9
18	生徒は学校生活の充実に向け、意見を述べ行動している	38.2	-28.5
19	日常生活や将来の夢などについて家庭でよく話し合っている	-16.9	

※ マイナスポイントになっているのは、保護者や教員が思うほど生徒は思っていないということになります。15ポイント以上の差があるもののみを表にしました。

## 【生徒と保護者】

- ① 大きく異なる項目は「地域活動への参加」です。保護者は、自分の子どもはそれなりに地域活動に参加していると感じていますが、生徒はあまり地域での活動に参加していないと捉えています。昨年度よりもかなりポイントが下がっていることもあり、どのように地域活動に貢献させるかが今後の課題です。
- ② 次に「家庭での話し合い」です。保護者は、自分の子どもがいろいろと話してくれていると感じているほど生徒は話していないということです。思春期を迎えている中学生と家族で話し合うことは、とても大切です。どのように話し合っていくかを考えたいものです。
- ③ 逆に、きっと学校では自分の意見を述べていないと感じている保護者は多いのですが、生徒は意見を述べているということです。これは、②にも通じることですが、学校でのことを聞いてあげる機会を家庭で持つことが重要なのではないのでしょうか。

## 【生徒と教員】

- ① 上の項目で「学校のきまりを守る」以外は、生徒は学校生活で頑張っていると感じています。しかし、生徒は教員が思うほど取り組んでいないという結果になっています。このギャップを考えると生徒の基準がかなり厳しいということが分かります。つまり、生徒の求めるものと教員の求めるものにずれがあると同時に、教員は生徒を集団として捉えるのに対して、生徒は自分自身のこととして捉えていることがこの差になっていると考えられます。個々の生徒が、十分に感じられるよう学校としては取り組んでいくことが大きな課題です。
- ② 「きまりを守る」についても同様のことが言えます。一人一人は、守って生活していても、守ることができない一部の生徒のために、教員は守られていないと感じてしまうものなのです。

## 【今後に向けて】

アンケート結果を真摯に受け止め、次年度の指導の重点を考え、計画・実行（行動）あるのみです。